

爭名譽

譽メヌ人コソ無リケレ、世上ノ毀譽非善惡、人間ノ用捨ハ在貧富トハ、今ノ時ヲヤ申スベキ、
 〔吾妻鏡 二十一〕建曆三年五月四日甲辰、辰刻將軍家○源自法華堂入御于東御所○尼御壘所、其後
 於西土門○曳兩日合戰之間、被疵之軍士等被召聚之、被加實檢山城判官行村爲奉行、行親忠家相副
 之、被疵之者凡百八十八人也、○中爰波多野中務丞忠綱申云於米町并政所、兩度進先登云云、米町
 事者置而不論、政所合戰者、三浦左衛門尉義村先登之由申之、於南庭各及噉々論之間、相州招忠綱
 於閑所、密々被仰云、今度世上無爲之條、偏依義村之忠節、然者米町合戰先登事無異論之上者、政所
 前事、對彼金吾相論難、叶時議、歟、存穩便者被行不次之賞、無其疑云云、忠綱申云、勇士之向戰場以先
 登爲本意、忠綱苟繼家業、携弓馬、雖何箇度、盍進先登哉、孰一旦之賞不可、讀万代之名云云、而爲知食
 彼眞僞、召忠綱、義村等於藤御內壺、爲行光奉行、將軍家出御、被上御簾、相州干大官令被候、廂先召
 義村、次召忠綱、兩人候、簀子圓座、遂對決、義村申云、義盛襲來之最前、義村馳向政所之前、於南發箭之
 時、雖微塵不飛行其前云云、忠綱云、忠綱一人進先登、義村者隔忠綱子息經朝、朝定等在後陣、而不見
 忠綱之由申、爲盲目、歟、依被尋于彼時之戰士等、皇后宮少進山城判官次郎金子太郎答申云、赤皮威
 鎧、駕葦毛馬之軍士先登云云、是忠綱也、伴馬者自相州所令拜領也、號片洲云云、又義盛親昵伴黨等
 被素搜之、

〔常山紀談 三〕姉川の戰に、坂井右近が子久藏十六歳にて討死す、久藏は十二の時、信長始て京に入
 し比、近江北郡にて鎗を合せたる剛の者也、三井角右衛門、生瀬平右衛門二人とも、久藏が首を得
 たりといふ、二人後關白秀次に仕へければ、此事沙汰ありて、三井がいつはりなりとて、鷹部屋に
 おしこめおきて、罪に行れんとす、三井のちを惜むに非ず、人の功名を盜たる惡名の子孫の恥
 とならん事、口をしければ、今一度詮議してたまはり候へ、證據は淺見藤右衛門に問れなば、實否
 正しかるべしと訟たり、淺見を安土より呼れけり、淺見は生瀬と久しき友なり、三井とは日比中